

教育行政の大綱に関する主な意見（第2回総合教育会議 項目ごと）

【大綱の枠組み・目標・考え方】

- 前提として、「絆」を強めて思いやりのある心を大切にし、夢や志を持ち、日々努力し続ける社会人を育成する。
- 課題と成果を検証しながら、より具体的な教育施策が進められるように項目の重点化を図る。
- 人口構成の変化、少子化、高齢化の進行といった社会構造の変化を見据える。
- 文科省の教育振興基本計画は必要項目が並列で並んでいるが、東大阪市の子どもたちをどう育て、どのような社会人として幸せに暮らせるかを目標に、何が基本なのかを考えながら、向かっていく先を立体的に組み立てていく。すなわち何が土台で、それを新たにどのように東大阪市らしく組み立てて、子供たちの育ち、学びを支えていくか。
- 学校現場が自ら変わっていくということを前向きにとらえられるものにする。
- 色々な人がつながりあいながら高みを目指し、子どもたちを支え、グローバルな人材育成を目指す。

【アクションプランとの関係】

- アクションプランの策定は大綱を見据えてのものになる。市長の教育に対する思いを一定の時期に示してもらい、プランに反映させる。

【重点目標】

キャリア教育

- 技術力の高い中小企業のまちという点を活かす。
- 体験学習（事前準備から事後学習までの中で、生徒、職員、保護者、企業がつながりを持ち、みんなが参加してよかったと思える体験とする。）が必要。
- 商売の擬似体験は生き方に強い影響を与える。東大阪市には豊富な資源があるのでいい形で教育とつなげることが強いメッセージになる。
- 体験学習の中で、自分が必要とされているという経験が良い影響を与える。
- プロジェクトベースラーニング教育が入れ込みやすく実践がしやすい。
- 子どもたちが体験し、たくさんの学びを得た後、それをどう発表するか。子どもたちが自らそれを発信することで企業も信頼を得られる。企業紹介にもなり、企業活動や理念や哲学も広く知らせることができる。
- フォーラムなどの場で成果発表する。取り組み紹介や表彰などをする場を確保する。
- 体験の中で自分のできる仕事を見つけ、他人から認めてもらえ自尊感情が高まる。

- 修学旅行で町工場を見学する。東大阪市の子どもたちにも機会を与える。
- 企業の受け入れる姿勢など連携の力を含め東大阪市らしさを明確に打ち出したうえで、子どもたちが生きる力を得る体験をしてもらう。
- モノづくりのまちとして、職業体験をはじめとしたキャリア教育に積極的に協力してくれる事業者をいかに集めるかといった仕組みづくりも大事である。
- 事業者が子どもと接することで、事業者にも集客などのメリットが生まれるウィンウィンの関係を築く。

連携教育

- 発達と学びの連続性については、幼児数が減少する中で喫緊の課題。
- 幼児教育について、規範意識や基本的な生活習慣の獲得を基本計画の中で位置づける。
- 認定こども園と幼稚園・保育所の横の連携。
- 幼稚園と小学校の連携。発達と学びの連続性、段差のない接続をして、幼稚園や保育所から小学校1年生に上がった時に、スムーズに遊びから学びに変わっていけるような計画とする。
- 子育てにおいて母親も孤立化している。子育ての第一責任は保護者にあるということ为前提にしつつ、行政の様々な部署が連携して子育て支援をする。
- 絆を強めていく中で、学力、豊かな心、すこやかな身体、社会を生き抜く力、人権教育を進める。
- 子育てをはじめ生まれたところから幼児期、小学校、中学校までの連携と、公私間連携を進め、子どもたちが大人になって社会で活躍できるよう一貫した取り組みを進める。
- 保護者、地域との連携を強める。
- 福祉保健機関をはじめとした関係機関と連携を持つ。
 具体例：・放課後子ども教室、放課後学習、長期休日の学習、土日の学習など色々な取り組みを行う。
 ・子どもたちだけでなく、地域や保護者が参加できる取組みを行う。学校、教育施設がキーステーションとなるようにする。
 ・いじめ、不登校、体罰防止の取組みは、家庭教育の手引きを配布するだけでなく家庭との連携を強める。教育相談を充実させる。
 ・現在教育フォーラムを開催しているが、教職員、保護者、地域の三者がより論議できるフォーラムとして実践する。

大学連携

- 東大阪市にはさまざまな大学があるので、大学（教職員、学生）との連携を強めて子どもたちの学習保障、教職員の資質向上に努める。

教育の質の向上

- 社会の動きに合わせた働き方、生き方の中で、これからは自立した子どもたちが活躍するが、幅広い教養かつ感受性や情操的な部分が大事になり、専門的知識も求められる。教育の質の向上が大事になる。
- 学力向上と同時に、情操的な部分をいかに育むか、歴史と文化、地域の色々なものに触れながらの教育と地域の力を借りながら、これからの働き方を見据えた教育が必要。東大阪モデルを作る。

東大阪市らしさ

- 昼間の人口が多いまち。これは東大阪市らしさの大きな一つなので、昼間、ここに住んでいる子供たちが学ぶと同時に多くの事業者がいて学びの場を提供する。

困難を抱えている子供たちへの教育

- 公立の教育の中で貧困といった困難を抱えている子どもたちへの教育が重要な課題。

グローバルな人材育成

- 国が新たな価値を創造する人材の育成を掲げる中で、ポテンシャルの高い子どもに対して公立の教育がどう対応するか。グローバルな人材育成も不可欠。

<事務局発言>

- 庁内の関係部局については、今後時期を見て出席を求め、大綱について議論を深めるとともに推進体制の構築につなぐ。
- キャリア教育は地元と連携しての生き方教育。地域との連携をしっかりとできる組織を作ることを大綱に盛り込みたい。